

「ロータリー財団月間に因んで」



ロータリー財団は今や10億ドル以上の寄付を受けるほどの大きな組織に成長しました。

「ロータリー財団」の設立のキッカケを作ったのはRIの第6代会長を務めたアーチC. クランフです。

1917年、寄付による基金をロータリーで作り世界的規模で慈善、教育、その他の社会奉仕の分野で何か良いことをしようとアトランタ国際大会で提案し採択されました。

1928年、「ロータリー財団」に名称を変更しましたが、当時は基金が中々集まらず、1947年ポールハリスの逝去に伴い、130万ドルの寄付が集まりました。財団としての初プログラムが高等研究奨学金でした。

1951年ロータリー財団の活動を見届けて、アーチC. クランフはこの世を去りました。

現在、補助金は地区補助金とグローバル補助金があり、甲子園RCは2002年以来、数々の事業で地区補助金を活用しています。

今年度も今月23日に開催されます「少年野球教室」に利用しています。

また、グローバル補助金は「超私の奉仕賞」を受賞された故森田道太郎会員が中心となって活用していました。

台北の東華RCにも協力いただいてタイ国チェンマイに図書館を設置したりしていました。

今年度は、東華RCのグローバル事業に甲子園RCが協力する形になっています。

カンボジア、プノンペン、の歯科技工士を台湾に招いて歯科技術の習得させる事業と台湾の大学教授や研究者をプノンペンに派遣する事業です。

補助金申請に不備があったようで、もう少し時間がかかるようですが、今年中には完了すると思います。

2017年に財団創立100周年を迎えるにあたり、ロータリー財団の将来像について、時代のニーズに合ったものに財団を変えてゆこうとしたのが「未来の夢計画」です。

未来の夢計画は「人道的・教育プロジェクトの規模をこれまでよりも広げ、ロータリアン自らが活動しやすい多種多様な奉仕プロジェクトを実施することで社会に多大な影響と持続可能な成果をもたらす、かつロータリーの公共イメージの高揚にも貢献する、より効果的で効率的、簡素化した支援方法を目指した新しい補助金モデルを目指しています。

最近のロータリーは寄付集めの団体に随ってきたという声を耳にすることがあります。

ロータリーは、寄付集めの団体でもなければ、奉仕団体でもない。奉仕の心を育て、自ら奉仕を実践する立派な職業人を育てる団体ですが建前上、財団への寄付は強制や教養ではないし、ロータリーの会員資格の条件になっている訳でもありません。「未来の夢計画」に謳われていますプロジェクト申請手続きの簡素化には程遠いように思います。